
世界滅亡と生贄の少女

ハル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界滅亡と生贄の少女

【Nコード】

N5942P

【作者名】

ハル

【あらすじ】

ある日突然何の前触れもなく異世界へと迷い込んだ少女、むかいびあおい向日葵。そんな彼女の前に現れたのは謎の男、サクリフェイス。『こここに契約は完了したー』そして二人は旅をする。目指す目的はただ一つ。

『世界の滅亡』

主人公チート物です

第1話 我が名を叫べ

天使になれたらいいなって、ずっと思ってた。

優しさを人に与えられ続ける、そんな存在になりたいって願ってた。

でも同じくらい……自分では無理だって、そう思っていた。

優しさがわからなかったから。

優しくされる、それがどういふことかわからなかったから。

「……………ん？ あれ、こっちは……………」

夢から覚める。

そこにいるのは、小柄な少女。おそらく十代半ばの、紫の髪を腰の高さまで伸ばし、金の瞳、整った顔立ちや体つきは、まるで人形のようにすら感じてしまうだろう。

少女が身につけている服は学校の制服だ。なぜそんなものを、と聞かれれば「学生だから」としか答えられない。茶色を基調としたもので、同様に下に履いたスカートも同じ色をしている。

そんな少女は、起き上がると同時に困惑していた。当然のように小首をかしげる所作からは、年相応の可愛らしさを感じ取ることができる。

現在いる場所は見知らぬ場所、周りを木々に囲まれ鬱蒼と茂る森林と見受けられ、こんな少女がいるべき場所とはかけ離れている。

なんでこんなところに？ そんな疑問が彼女の頭に浮かぶが、すぐにその思考を切り捨てる。そんなことを考えるのは時間の無駄、ならば、状況を把握するために周囲の探索をした方がいいと結論づけてのことだった。

「とはいえ、近くに人もいないし、ここがどこかもわからないし、なんか怖そうなところだし……うう、どうしよう……」

数分、辺りを探索した後、空を仰ぎ見る。が、やはりというかその空は彼女にとって未知の色をしていた。本来透き通るような青色をしている筈の空は、不可解な色をしている。少女が表現するには、いや、人間が表現することが出来る色ではない。それでも、敢えて貧弱な語彙で喩えるなら、

『混沌』

それが一番しっくりときた。そんな禍々しい空を眺めると、大きな影がこちらに迫るのを確認した。

「……？ あれは、鳥？」

そんな少女の予測は的中する。それは鳥であり、同時に少女の知

っている『鳥』という生物のどれにも当てはまらなかった。

「ちよ、ええええ!? 待って待って! 何あれ!？」

それはおよそ人間が知る生物のどれともかけ離れていた。顔の口にあたる部分が不自然なまでに飛び出し、胴体は異常なまでに細く、左右の翼は枝分かれした木々のようであった。

「やだやだやだ! 気持ち悪いー! こないでよおー!」

そう言うのが早いか、彼女は一目散に駆け出していく。あの鳥のよ
うな生物から、少しでも早く離れたかったのだ。

だが、所詮は少女の脚力。野生の生物、まして、空を飛ぶものを
撒けるはずもない。あっという間に追いつかれる。

「やーだー! 誰か助けてえー!! 何でもするから助けてよおー
!!!」

自分の命可愛さにそんなことを叫んでしまう。すると、

《その言葉に嘘偽りは無いか?》

不意に頭の中に声が響いてきた。それは少し渋さを感じる男性の
もので、聞こえてくる、というよりは流れ込んでくる意思のようだ
った。

「嘘じゃないし、何でもするから! だから、誰でもいいから助け
てー!!!」

だが、絶体絶命の危機である少女にそんなことを考える余裕はなく、ただ己が保身のためにその問いにこたえる。

《……多少緊張感に欠けるが、まあ良い。……ここに契約は完了した。我が命はマスターの物、我が体はマスターの剣であり盾となる。呼べ！ 我が名はー！》

唐突に頭に浮かぶ名を、ただ本能のままに少女は叫ぶ。

「ー！ー！サクリファイスー！ー！！」

少女が名を叫んだその刹那、目の前にまで迫っていたはずの鳥が消えていた。

いや、正確には『鳥の形を残していなかった』

駒切れの肉片と化し、パラパラと落ちていく様を少女はただ呆然と眺めていた。

すると、目の前に見知らぬ男性が降り立つ。どこから？ という疑問が沸くが、今はどうでもいい。

少女の頭には目の前の男に対する疑問しかなく、それだけがぐるぐると脳内で循環していた。

外見は十代後半か二十代前半の青年で、夜空のような深い漆黒の黒髪を肩まで伸ばした銀の瞳をした男で、体には彼の髪と同じ黒いコートが羽織っていた。

「あなた、だれ……？」

ようやく絞り出したのは、その一言。震えるような声で、囁くような声で、か細い声で言っていたが、幸い目の前の男性の耳には届いていたらしい。その言葉を聴いて、目で分かるような不満顔をして肩をすくめる。「やれやれ」とても言う風にこちらを見つめ、口を開く。

「……ふむ。自分で呼び出しておいてそれが。いや、なかなか傲慢ではないかと思うが？ マスター」

皮肉めいた口調で男性は言ってくる。その声音に敵意がないことを感じると、少しだけ緊張が緩み、先ほどよりはハッキリと返事をする事ができた。

「私が、呼び出した……？」

少女の頭に浮かぶはただ一つの可能性。よく聞けば先ほど頭に響いた声と酷似するその声に、疑心は確信へと変わる。

「いかにも。我が名はサクリファイス。俺という存在は君により呼び出されたモノ、故に君を我がマスターと認めた。これからよろしく頼む」

「……これが彼女、向日葵と、サクリファイスの出会いの物語だった——」

第1話 我が名を叫べ（後書き）

どうもー、ハルです〜w

今回は二作品目の『世界滅亡と生贄の少女』です

個人的には結構面白いですけど……w

主人公チートにしようかな〜、と。

ご意見感想ダメ出しなど、積極的に受け付けます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5942p/>

世界滅亡と生贄の少女

2011年10月8日13時42分発行